

# 平成17年度事業箇所評価の結果の反映方法について

## < 評価結果 >

客観的手法を用いて、事業種別(分野)ごとに実施予定箇所ごとの優先度(評価結果)を決定している。

実施予定箇所ごとに、客観的評価手法を用いて数値的に判定し、事業種別(分野)内における優先度(評価結果)を決定している。優先度は、評点及び評点による順位により明らかにしている。



## < 評価結果の反映 >

評価結果を判断材料とし、翌年度の予算規模に応じて翌年度実施箇所を選定(予算付け)する。  
評価結果と反映状況が異なる場合はその理由を明記する。

評価結果を判断材料とし、翌年度の予算規模に応じて、継続事業箇所の優先度(評点及び順位)の高い順、続いて新規事業箇所の優先度の高い順に、翌年度に事業を実施する箇所を選定(予算付け)し、その状況を下記の「反映状況の区分の考え方」に従い整理する。

なお、評価結果にかかわらず、事業執行上の特別な事情により事業を実施する箇所又は事業を実施しない箇所がある場合には、その理由を明らかにする。また、翌年度実施しない継続事業箇所についても、その理由を明らかにする。

例:(事業箇所数が7箇所の場合)

## < 評価結果 >

### (1) 継続事業箇所

事業箇所	評価結果	
	評点	順位
A 工事	215	1位/4
B 工事	189	2位/4
C 工事	174	3位/4
D 工事	132	4位/4

## < 評価結果の反映 >

### (1) 継続事業箇所

実施年度	事業箇所	評価結果		反映状況	評価結果と反映状況が異なる理由等
		評点	順位		
18	A 工事	215	1位/4		
	B 工事	189	2位/4		
	C 工事	174	3位/4		
	D 工事	132	4位/4		

### (2) 新規事業箇所

事業箇所	評価結果	
	評点	順位
E 工事	195	1位/3
F 工事	182	2位/3
G 工事	128	3位/3

### (2) 新規事業箇所

実施年度	事業箇所	評価結果		反映状況	評価結果と反映状況が異なる理由
		評点	順位		
18	F 工事	182	2位/3		理由明記
19	E 工事	195	1位/3		理由明記
20	G 工事	128	3位/3		

境界線

## < 反映状況の区分の考え方 >

実施年度	反映状況の区分	考え方
18	評価結果に基づき平成18年度実施する箇所	
	評価結果によらない特別な事情により平成18年度実施する箇所	理由明記
19 ~ 20	評価結果によらない特別な事情により平成18年度実施しない箇所	理由明記
	評価結果に基づき平成18年度実施しない箇所	理由明記 (継続のみ)